

広告 企画・制作 読売新聞社広告局

Yomiuri
介護
 特集
 11月11日は介護の日



「日本一かっこいい介護福祉士」として、年間70本以上の講演で全国を駆け巡る杉本浩司さん。そのスマートなたたずまいがとかく注目されるが、熱いハートの持ち主でもある。介護に懸ける熱い胸の内を披露してもらった。

運命の出会いが、杉本さんをして「日本一の介護福祉士を目指す」よう仕向けた。「実は僕、おじいちゃん、おばあちゃん、苦手だったのですよ。」

介護福祉士になった理由を聞くと、のっけから意外な答えが返ってきた。杉本

さんの小さい頃からのキーワードは「かっこいい」。苦手なお年寄りを克服できれば、かっこいいと思い、介護の専門学校に進んだ。

一方で、専門学校に通いながらモデルとしても活動し、むしろ将来はそちらの道に進むだろうと思っていたくらいだ。

転機が訪れたのは、介護福祉士として就職した1年目の秋だった。あるパーティーに出席し、1人でお酒を飲んでいると、見知ら

ぬ20代中頃の女性に話しかけられた。モデルと介護福祉士の仕事を掛け持ちしていることなどを聞かれるまま話すと、突然「あなたはモデルでは一番にない。止めた方がいい」と言われたのだ。

「その女性と話したのは、その時が最初で最後。びっくりしましたね。それで彼女が『モデルをやっていて、何が一番楽しかった?』と聞くので、『スポーツライートを浴びたこと』と答えたとこ

ろ、『では、介護を受けている方に、あなたがスポーツライートを浴びせてあげてみては』と言うのです。その言葉がずどんと心に響

きましたね。それを聞いて、『介護の世界を変えよう』『介護で一番になろう』と思

「その人の当たり前を取り戻す」 介護の実現を



この出来事をきっかけに、介護の仕事に専念。以来、介護福祉士としての活動に加え、施設のマネージャーや人材育成、介護の現場をよくするための啓蒙活動としての講演など、幅広く活躍している。そうした活動を通じて、

杉本さんが一貫して掲げているのが、「その人の当たり前を介護福祉士が関わることで実現する」だ。

日本一かっこいい介護福祉士は、目をきらきら輝かせ、こう夢を語った。

「たとえば、車椅子で居酒屋に行きたいという方がいらしたら、それを実現してあげる。それが僕らの役目だと思っています。それが実現した場面を目にするとうれしいですし、それを実現できて涙している介護福祉士の姿を目にしてもうれしい。『その人の当たり前を取り戻す』、そうした介護を日本中で実現したいですね。それに役立つ情報を継続して発信していくつもりです。」

“日本一かっこいい介護福祉士”
 杉本浩司さん

1977年、千葉県生まれ。介護専門学校時代はモデルとして活動。現在は、介護福祉士としての活動に加え、年間70本以上の講演を行っている。社会福祉法人ウエルガーデン法人本部採用企画室長。